

ドル円、一時 132 円台半ばまで下落

GLOBAL MARKETS RESEARCH

チーフアナリスト 井野 鉄兵

リサーチアシスタント 齋藤 賢斗

三菱 UFJ 銀行

A member of MUFG, a global financial group

令和 4(2022)年 8 月 1 日

前営業日の市況

ドル円は 134.39 で寄り付くと、米景気後退の懸念が高まるなかで円全面高の様相となり、ドル円は一時 133 円を割り込む水準まで急落した。海外勢参入前後の時間帯には、安値 132.51 まで下げ幅を広げた。だが、欧米株が上昇するなかでドル円は反発。第 2 四半期の米雇用コスト指数が市場予想を上回ったこともあり、FRB の利上げ期待が高まると、中期ゾーンを中心に米金利が上昇し、ドル買い圧力が高まった。ドル円は一時 134 円台後半の高値近辺まで値を戻すも、米長期金利が低下するなかで、133.22 まで値を下げて引けている。(齋藤)

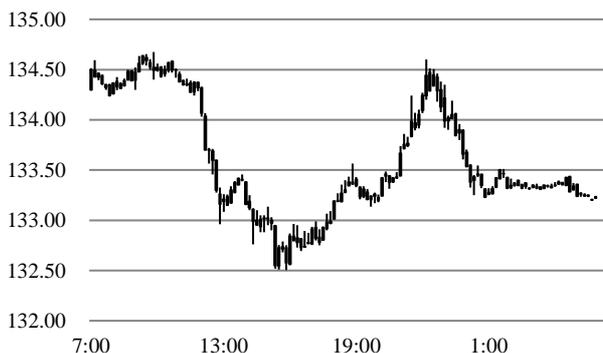
本日のポイント

先週の FOMC 以降、景気後退懸念がインフレ懸念を上回る状況が続き、ドル円は 2 日で 4 円近く押し下げられた。本日の ISM 製造業景況指数もこうした流れに拍車をかける可能性がある。テクニカル面でも、一目均衡表「基準線」と「転換線」がデッドクロスし、「遅行線」も 26 日前実勢を下回った。あとは「雲」が最後の砦。なお、5 月下旬にも同様の展開となったが、雲衝突を目前で回避し、再浮上していた。29 日は長い下髭が雲（上限：132.82）に刺さった格好となっており、本日は改めて同水準を試す展開となろう。(井野)

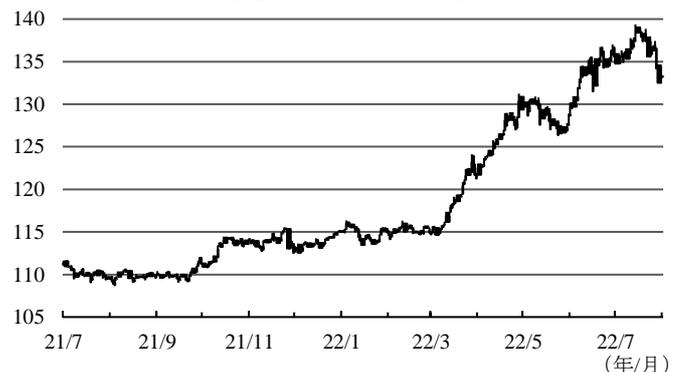
本日のディーラー予想

| ドル円 | ユーロドル | ユーロ円 |
|---------------|---------------|---------------|
| 132.50~134.00 | 1.0150~1.0280 | 135.30~137.00 |

前営業日のドル円相場推移



直近1年のドル円相場推移



(出所) グラフは Bloomberg EBS、文中の為替データは弊行 4 本値

